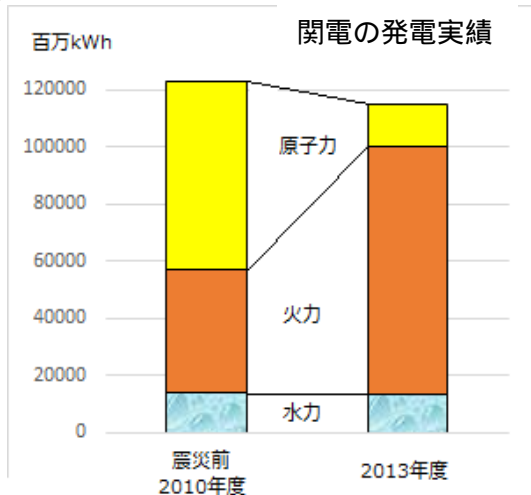


関電はこの夏原発なしでも 支障なし

現在、すべての原発が停まっています。昨年の夏には大飯 3, 4 号機が多くの反対を押し切って稼働しましたが、今年は新規規制基準の耐震設計への対応が遅れ、このまま原発なしで夏を迎えることが確定しています。

しかし、国や関西広域連合の検証では、必要な供給予備力は確保されるとされており、節電の呼びかけも数値目標を設けない見込みです。



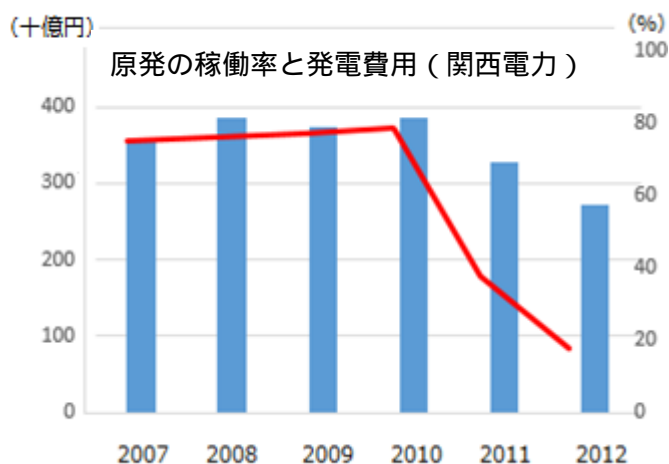
関西電力管内における8月の電力需給見通しの総括表 (万kW)

	需要	供給力	(内訳)							供給予備力
			原子力	水力	火力	揚水	新エネ	他社	融通等	
今夏	2,873	2,960	0	209	1,633	414	0.3	537	167	87 (3.0%)
昨夏	2,845	2,932	236	205	1,478	420	0.3	525	66	87 (3.0%)
差	+28	+29	▲236	+4	+155	▲7	±0	+12	+101	±0

出典：第5回電力需給検証小委員会 資料5

節電が進んでいる！

関電の昨年度連結決算は 974 億円の赤字で、3年連続赤字となっています。昨年 4 月に電気料金を値上げしたものの、黒字に転換することができませんでした。全国 10 電力を見ると、黒字であったのは原発を持たない沖縄電力と原発比率の低い北陸電力だけ。右上図のように火力の焼き増しが増えたことが原因とされています。



しかし、本当の原因は原発が金食い虫であるところにあります。

左下の図は、関電の有価証券報告書等から数字を拾って作成しました。折れ線は原発の稼働率（右側の数字）、縦棒は原発の発電費用（左側の数字）です。本来なら原発はほとんど停まっているので、その分経費は抑えられていなければなりません。ところが、実績からは発電していなくても、原発には多額の費用がかかっていることがわかります。使用済み核燃料の管理などには手を抜けないからです。

関電は、さらに、高浜 3, 4 号機、大飯 3, 4 号機の耐震補強に多額の費用をかけようとしていて、八木社長は再値上げの可能性についても示唆しています。原発に頼りすぎた経営方針が誤っていたのであり、そのツケを消費者に押し付けて責任を取らないようでは経営者として失格です。